（３）②様式第３号－２（報告書）

NITS・教職大学院・ 教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 愛媛大学教職大学院　連携：松山市教育研修センター事務所
	事業名： NITS・愛媛大学教職大学院等コラボ研修
	研修等名：【NITS・愛媛大学教職大学院等コラボ研修】 深い学びを実現する授業づくり研修
	開催日時：令和６年５月～令和７年２月 開催場所：愛媛大学教育学部、愛媛大学教育学部附属小学校、松山市教育研修センター事務所（愛媛県松山市） 参加人数（総数）と参加者の属性：総数（254 人） 5 月 11 日 14：00～17：00・72 人、5 月 18 日 13：00～16：00・21 人、11 月 30 日 9：30～12：00・40 人、1 月 25 日 13：00～16：00・21 人、2 月 7 日　15：00～16：00・100 人（学校関係者 153 人、学生・大学院生 15 人、教育委員会関係者 11 名、NPO 等１４名）

目的：

現行学習指導要領の全面実施から５年目に入り、各校では主体的対話的で深い学びの実現のための授業改善、社会に開かれた教育課程、カリキュラムマネジメントを試行錯誤しながら実践を続けている。その中には主体的対話的で深い学びと言い難い実践も未だ多く見られるのも事実である。特に「深い学び」については、まだまだ真に理解が進んでいるとは言い難い。次期改訂作業が 2025 年から始まる今、改めて今回の学習指導要領で求められている学びの在り方を理解促進させる機会を設ける必要がある。

そこで本事業では特に「深い学び」に焦点をあて、その実現に向けた手立てや方法を学べる研修を実施する。具体的には、アクティブラーニングの第一人者で主体的対話的で深い学びや自己調整学習に造詣が深い、桐蔭学園理事長の溝上慎一氏、考え議論する道徳の実現に向けて道徳的価値の深化について研究を進めている広島大学の杉田浩崇氏、真の探究について、概念型探究を日本に紹介している一般社団法人こたえのない学校の藤原さと氏の御三方を講師として招き、愛媛県内の教職員及び教職大学院生とともに、深い学びを具現化していくための研修やワークショップを実施し、魅力ある授業づくりができる教員を育成することを目的とする。

内容：

３ 名の講師の方に来ていただくにあたり、まず主体的対話的で深い学びについて、改めてどのような学びなのか、令和の日本型学校教育として示された個別最適な学びや協働的な学びとどう違うのか、について専門的知見から学ぶ機会として、学校法人桐蔭学園理事長の溝上慎一氏に講師に来ていただき、「現行の学習指導要領に ICT 利活用を加えて、個別最適・協働的な学びを実現する－資質・能力育成とウェルビーイング－」という演題で講演をしていただいた。

溝上氏は、現行学習指導要領の改訂に携わった方であり、専門領域である自己・アイデンティティ形成の視点から、アクティブラーニング型授業を推進していくことの重要性を分かりやすく説明していただいた。桐蔭学園で取り組まれているノート指導やアクティブラーニング、問いづくりなどの授業実践を紹介していただけたことで、参加者は自分の取組と比較しながら学ぶことができた。溝上氏は、一貫して現行指導要領が推し進める主体的対話的で深い学びを愚直に取り組むことで、児童生徒が伸びることをデータなども活用しながら説明をしていただいた。そこから続けて、主体的に学習に取り組む態度や深い学びの方向性についても伝えていただいた。最後には次期指導要領にも反映される予定の日本型ウェルビーイングについては慎重な扱いと検討が必要である、と警鐘を鳴らされるなど、最新の知見や理論を知る機会にもなり、参加者にとって日々の実践や認識を振り返ることができた充実した時間となった。

溝上先生の話をより具体的な場で実践していくための資質・能力の向上を図るため、2 人目の講師として広島大学大学院教育学研究科の杉田浩崇先生にお願いし、連携協定を結んでいる松山市教育研修センター事務所と共催の形で、道徳教育や道徳授業に関する研修を実施した。杉田先生からは、道徳の実践をするにあたり、教師自身が内容項目について深く考えておくことで児童生徒の多様な意見を受け止められること、それを活かした授業を構築することが必要であることについて専門的知識を提供していただきながら、詳しく解説していただいた。加えて、Y 字チャートを活用した内容項目への迫り方のワークショップを行い、参加者は自らの日々の道徳授業を振り返りながら、自分自身の内容項目の捉え方について熟考している様子が見られ、充実した研修となった。松山市教育研修センター事務所の担当指導主事とも連携し、参加者自身に深い学びを引き起こすと同時に、その成果を授業開発にもつなげていけるよう、複数回実施することとした。その結果、大学院生や学生らも巻き込みながら様々な立場の参加者から多角的な視点で研さらに深い学びを醸成することが可能となった。

深い学びを実践化する際に探究の要素は欠かせない。溝上先生、杉田先生の学びをさらに腑落ちする学びを設定するために、良質な探究の一般普及を目指し、教師自身が探究を体験できる研修を企画・運営されてい

る藤原さと氏を講師に、「深い学びを実現する探究の授業デザイン」というテーマでワークショップ型の研修をしていただいた。実際には、アメリカのハイテックハイで用いられている探究のワークショップを取り入れた研修をしていただき、探究の歴史や概念型探究についての解説に加え、現行学習指導要領の３つの要素がリン・エリクソンが提唱する概念型探究の知識の構造と非常に親和性が高いことを分かりやすく説明していただき、主体的対話的で深い学びが非常によくできたものであるので、学校や教師はそれを推進してほしいというメッセージを伝えられた。参加者は、改めて探究の可能性を感じ、深い学びを具現化していくヒントを得ることができていたようであった。また、愛媛大学教育学部附属小学校が ３ カ年計画の研究で探究を軸にしていたため、附属小学校とも連携を図りながら藤原さと氏に研修や講演、授業実践へのアドバイスなどをお願いした。そうすることでより学校現場の実践を通しての探究や深い学びの在り方を検討することができるようになり、参加者のイメージもより豊かになった。

昨年度までの経験を活かしながら、深い学びの研修の質向上には、①多様な講師による多方面からアプローチする研修、②学校現場の具体的な実践と結び付けた研修、が必要だと考え、今年度の事業を申請した。結果、参加者の充実度や満足度が上がり、新たな参加者も加わることとなった。深い学びと一言で言っても、様々な形や取り組み方があるため、より幅広い対象を意識した研修を創り出すことの必要性を改めて認識させられる結果となった。本事業を実施したことで、深い学びについて学ぶ場を愛媛県内外の教員に提供することができた。

成果：　（3 人の講師の研修の中で特に初めての参加者が多かった、溝上氏の研修会の感想を示す）

・本公演を拝聴し、学習指導要領の「主体的な学び」についての本質を理解することができました。特にスライド P28 の図では、主体的な学びには３つの段階があり、その段階に応じて、生徒に効果的なアプローチが必要であると感じました。また、学習パラダイムの習得と活用と探究における、教授パラダイムと学習パラダイムのそれぞれの割合の図では、感銘を受けました。現在、私は高校２年生の担任をしており、課題探究の指導の真っ最中ですので、図の割合を意識しながら、生徒と伴走していきたいと思います。そして、先生が河合塾との研究で高校２年生時点の資質・能力が大学生まで影響しているデータを自分のクラスの子供たちにも共有し、生徒の活動を後押ししていきたいです。溝上先生の本を読み、今後も勉強していきたいと思います。

・主体的な学びや個別学習など現場で実践することについて、「なぜそれをするのか？」「それをする目的」を先生や現場に携わる方一人一人が忘れてはいけないことだと思いました。「0 歳から 18 歳までの学びの連続性」について、幼児期から小学校に入る際、「小 1 プロブレム」と言われる課題などを減らしていくことで、繋がりがさらに強くなると思いました。学校の社会的機能として、明治から昭和の時代の学校とは役割が変わっており、それは時代の変化に伴うことですが、学校がもっと社会や地域と繋がった存在になっていく必要があると思いました。ウェルビーイングを目指していくために、主体性や主体的な学びは欠かせないと思います。そのためには、子ども（大人も然りですが）が「何に興味関心があるか」「将来自分がどうありたいか」など能動的に自分と向き合う時間も必要になると思います。そして、当事者意識です。学校での「やらされる授業」「過去に決められた校則を守る」の状態を、「子どもが自ら学びに向かう体制」「自分たちの過ごす環境は自分たちでつくっていく・改善していく」などを通して柔軟にしていく必要があると思います。これが、セミナーの最後にあった「自分（たち）をモニタリングする、コントロールする」というメタ認知活動にも繋がると思います。このような機会をいただき、溝上先生、藤原先生、セミナー開催に携わってくださった方々に、感謝しております。今後の活動にも活用していきたいと思います。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

本事業では、NITS からの提案の中でも特に、③豊かな気付きが醸成される学び、④探究型研修、⑤学び合いのコミュニティを意識して実施した。教員の研修観の転換を図り、新たな学びを積極的に取り入れていく意識を醸成できるよう、本事業では、溝上氏、杉田氏、藤原氏による研修＆ワークショップを行い、現行学習指導要領のキーワードをもとに、自身の実践を振り返れるような内容を心掛けた。実際には、教師がどう教えるか、から、子どもがどう学ぶか、への転換をどのように具体化していけばよいのかを参加者同士で検討し合う場面も随所に見られ、実施した成果は大きいと言える。複数回の研修として設定したが、途中から参加、1 回のみ参加も受け入れ、学びたいときに学べるようにしたことも、会の充実につながった。今後も定期的に参加型の研修を実施し、子どもの学びの相似形としての研修の在り方として参考になる形を示し、県内に広く浸透させていきたいと考えている。

アイディアや工夫したこと：

・　アクティブラーニング、道徳教育、探究と異なる分野、立場の専門家を講師に招き、参加者が様々な観点から学び合えるように設定した。

・　現行学習指導要領の具現化をどのように図っていいくか、を改めて学び直すことで深い学びになるようにした。

（溝上真一氏の研修）

（藤原さと氏の研修）